
血塗られたノート

藤木 大成

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

血塗られたノート

【Nコード】

N9809E

【作者名】

藤木 大成

【あらすじ】

人をいじめちゃいけないよ。いじめっ子はいつか復讐されるんだから、、、

ある小学校にゆう子という子がいました。

ゆうこはいじめっこでした。いつもクラスのおとなしい子や、体の弱い子をいじめたりしていました。

先生に注意されても、

「ふん いじめられる方が悪いのよ」

と言つて弱いものいじめをやめませんでした。

ある日ゆう子が学校から帰つてきて、ランドセルを開けてみると中に見たこともない1冊の古びて色のあせたノートが入っていました。

「おかしいな 誰のノートだろう」

表紙を見ると5年2組までは読めるのですが名前の所に赤黒いしみができていて読めません。

5年2組、、私のクラスだわ 誰のだろう こんな汚いノート」中を読んでみると日付が書いてあり何か日記のようでした。読んでみてゆう子は思わず

「いやっ」と声を上げてしまいました。

「何なのよこれは」とそのノートを投げ捨ててしまいました。

2月3日

今日、私の下駄箱の中にごみがたくさん入っていた。

2月5日

今日も誰も私とは口をきいてくれない。

そう、それはいじめられていた子の日記でした。

「誰がこんなことを」

ゆう子はさっさとランドセルを閉めると、そのノートをゴミ箱に捨ててしまいました。

ところが次の日学校から帰ってランドセルの中を見ると、またあのノートが入っていました。

なぜ、捨てたはずのノートが、、ゆう子は怖くなって、ランドセルを放り投げてしまいました。するとそのひょうしにランドセルの口からノートがすべり出て、パラッとページがめくれました。

2月10日

もう生きていくことがいやになった。

ゆう子はすばやくノートを拾い上げるとビニール袋にいれ、玄関を出て外のゴミ捨て場に出しました。これで完全にゴミ屋さんが持つて行ってくれるわ。そう思うと少し気持ちが楽になりました。

「もしかしたら昨日はお母さんがゴミ箱から出してランドセルに入れたのかもしれない

きつとそうよ」

自分にいい気かせるようにそつつぶやきました。

次の日、学校帰りゆうこは念のためランドセルの中を確認しました。

「今日が入ってないわ やっぱりゴミ屋さんが持つて行ってくれたんだわ」

ほっとして家に帰りました。そして夕方宿題をやるうとランドセルを開けた時です。ゆう子ははっと息をのみました。あつたのです。あのノートが、

「どうして どうして」

確かに学校で確認した時はなかったのに 震える手でノートを手

に取ると大急ぎで玄関を出ました。

「遠くに捨てなきゃ もっと 遠くに 遠くに」

そう口にしながらわけもわからずゆう子は夢中で走り続けました。どこをどう走ったのかおぼえていません。疲れ果ててふと気が付くといった間にか学校に来ていました。

もうあたりは真っ暗で、学校にも誰もいる様子はありませんでした。何かに引き寄せられるように校門の中に入ったゆうこの前に、一人の髪の長い青白い顔をした女の子が立っていました。顔ははっきり見えませんが、目だけはらんと輝いていました。

その子は蚊の鳴くような声で

「私のノート 私のノート…返して」

そう言いながらゆう子の方に近づいてきました。恐ろしさのあまりゆう子は逃げるように走りました。振り返るとその子はどんどん追いかけてきます。ゆうこは校舎の中に入り、階段を上り逃げ続けました。2階、3階、、、、とうとう屋上まで逃げたところで追い詰められてしまいました。女の子は一步、また一步、ゆうこに近づいてきます。よく見るとひたいからは血が流れていました。

ゆうこは悲鳴に近い声で

「たすけて たすけて」と叫びました。

「ノート ノート」

そういいながらその子は近づいてきます。バサツと音をたててゆうこの手からノートが落ちました。すると急に強い風がビューと吹いてきました。そのひょうしに落ちたノートがパラパラとめくれました。そしてそのノートの最後のページが開きそこには 真っ赤な文字で

「ゆうこが憎い」

と書いてありました。

「わぁー」

と言う悲鳴を残してゆうこは屋上から落ちていきました。
あくる朝、用務員さんによってゆうこの遺体が発見されました。
そしてゆうこが落ちたと思われる屋上にはゆうこが普段使っている算数のノートが落ちていました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9809e/>

血塗られたノート

2010年12月4日11時45分発行